

【専門科目領域/専門科目群/看護の基本】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護援助方法論 I	NSP11_002	必修	2	1	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
小石川 好美 他	403	yoshimi.koishikawa	月曜日～金曜日 12:10～13:00		
授業の目的・概要	看護実践能力の基礎となる基本的な看護技術のうち、あらゆる看護技術の土台となる共通技術を学ぶ。具体的には、人間関係を形成するためのコミュニケーション、看護の対象者と看護を提供する看護者自身の安全を守るための感染予防、安全確保の技術を学修する。これらの技術は、対象者との援助的関係を形成し、患者の生命と安全を守るあらゆる看護技術の基盤である。これらの看護技術が科学的根拠と倫理的判断に基づくことを理解し、演習することで援助技術を身に付ける。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・イベント <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	1.人間の日常生活行動は、どのような心身の機能を使っているかを理解した上での学習となる。各単元で必要な人体構造機能学、生化学、人間関係論等の復習・予習を行い授業に臨んでほしい。 2.動画教材の活用と自主練習により、積極的に技術を修得してほしい。 3. 不明点や疑問点はそのままにせず、授業内の意思表示や教員への質問等を行うことで解決するように取り組んでほしい				
教科書	看護がみえる 基礎看護技術 vol.1 (第2版) /編:医療情報研究所 /メディアックメディア /2024				
参考書	特になし				
外部教材	動画教材など、授業時に提示する。				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	看護技術提供に伴う倫理的判断と対象者の権利擁護について説明できる。	NS(1)(3)			
②	本科目で学ぶ共通技術の根拠と方法について説明できる。	NS(1)(3)			
③	本科目で学ぶ共通技術を自分で作成した手順と根拠に基づき実践できる。	NS(1)(3)			
④	人間関係形成のためのコミュニケーションについて説明できる。	NS(1)(3)			
⑤	対象者および看護者を安全に守るための感染予防技術について説明できる。	NS(1)(3)			
⑥	医療事故を防止し、対象者を安全に守るための技術について説明できる。	NS(1)(3)			
⑦	援助技術の習熟のための自己練習に主体的に取り組むことができる。	NS(5)			
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	授業ガイダンス 看護技術総論	講義	事後課題に取り組む。	4	
2 3	身だしなみ	講義・GW	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	8	
4	技術演習を行う際の留意事項と学習の仕方・実習室の利用方法(演習:技術演習の学習の仕方)	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	4	
5	ベッドメイキング	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	4	
6	人間関係を発展させるためのコミュニケーション: コミュニケーションの意義と目的、構成要素と成立過程	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	4	
7	人間関係を発展させるためのコミュニケーション: 関係構築のためのコミュニケーションの実際	講義・GW	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	4	
8	感染予防における看護師の責務と役割 感染から患者を守るための技術:感染予防における看護の役割、感染予防の基礎知識	講義	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	4	
9	感染から患者を守るための技術:手洗い、個人防護具の使用法(演習:手洗い、洗い残り点検)	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	4	
10	感染から患者を守るための技術:療養環境の清潔保持、針刺し、切傷、血液曝露防止、滅菌手袋の着脱	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	4	
11	感染から患者を守るための技術:手洗い、個人防護具の使用法(演習:ガウンテクニック、手袋の着脱)	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	4	
12	安全確保の技術とエビデンス(ヒューマンエラーの特徴と事故防止対策・事故分析)	講義	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	4	
13	安全確保の技術とエビデンス(患者誤認防止、誤薬防止、ラインチューブトラブル、転倒転落防止)	講義	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	4	
14 15	安全確保の技術とエビデンス(事例検討)	講義・GW	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	8	
試	筆記試験、技術試験				

【専門科目領域/専門科目群/看護の基本】

		達成度評価						
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		50	30	0	0	20	100	
総合力指標	知識・技術力	50	10	0	0	10	70	
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	0	10	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	10	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10	
問題を発見・解決する力		0	10	0	0	0	10	
		評価のポイント					フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点						
試験	①	✓	・授業中に講義した内容の理解度および知識の定着について、学期末に定期試験を実施して評価する。 ・形式は、記述式、選択式の混合である。					試験終了後に、試験の解説を行い、学生の質問に答える。
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
	⑥	✓						
	⑦	✓						
レポート	①	✓	単元ごとに学習課題を提示する。課題レポートの提出状況と内容により評価する。 演習終了時には、事後課題を提示する。					・演習時にレポートを活用できるようにする。 ・演習後にレポートを提出し、コメントを記入する。
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
	⑥	✓						
	⑦	✓						
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
	⑦							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
	⑦							
その他	①		演習への取り組み、課題の提出状況から、主体性や意欲を評価する。					・提出した課題に対して必要に応じてコメントする。全体への指摘は授業内でコメントする。
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥	✓						
	⑦							
備 考								
他担当教員	山崎さやか、岩淵正博							
教員の実務経験	科目責任者は、看護師として40年の臨床経験を有し、臨床実践と学問的な知識、技術を併せて教授する							
実践的授業の内容	・担当教員の臨床経験および今までの学生指導で得た経験をもとに、各単元において事例紹介を交えて学生が臨床における看護をイメージしやすいように授業を進める。							
その他	・課題等の提出は期日を厳守すること。 ・講義や演習での知識技術の習得、課題の作成などすべてが臨地実習での患者への援助につながるため、積極的かつ真摯に取り組むこと。 ・他の科目の進行状況や学生の学修状況により、授業スケジュールの変更があり得る。 ・今後の社会情勢によって、シラバスの変更があり得る。							